

文化財表示板について

宇都宮市では、歴史や文化財を次世代に伝えるとともに、歴史の薫りのする魅力あるまちを創造するために、市内を7つのエリアに分け、文化財表示板を設置しています。

F 日光街道沿い地区
時代を刻む道・日光街道



B 大谷地区
石の里



A 市中心部地区
エリア名称：『城下町うつのみや』



宇都宮の中心部を代表する文化財である二荒山神社と宇都宮城跡を図案化したものです。

C 根古谷台・市南部地区
古代史の回廊



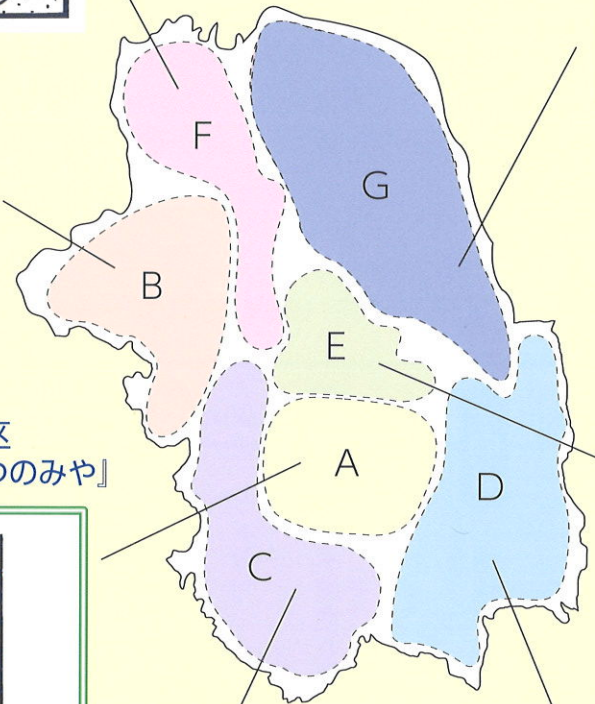
G 河内・上河内地区
奥州道中と伝統文化の里



E 北山・長岡地区
まほろばの里



D 市南東部地区
武士の夢ヶ原



◎説明サイン

文章や写真・絵図で、指定文化財や名所・旧跡、旧町名の由来について紹介しています。



◆誘導サイン

コース沿いの見どころの近くや道路が分岐する付近に立っています。矢印と文字で行き先を案内します。



(令和5年3月)

祥雲寺のシダレザクラ【祥雲寺】D・6



このシダレザクラは、江戸初期の明暦年間(1655~1658)、祥雲寺本堂再建の記念として植えられたものといわれています。昭和23年(1948)、本堂が火災にあったとき、枝の北側の一部

が焼失しました。昭和49年、枯れた部分を切り取り、根元に肥料を施したところ、近年みごとに花をつけるようになりました。開花は3月下旬ごろで、県内では代表的なシダレザクラの巨木です。

[昭和32年8月30日 県指定]

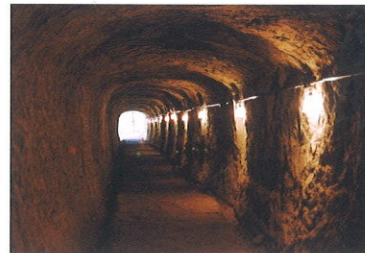
大銀杏(旭町の大イチョウ) F・6



大イチョウは、宇都宮城の三の丸と百間堀の境の土塁の上にあります。宇都宮城ゆかりの名木です。樹齢約400年と推定されており、宇都宮市民のシンボルとして多くの人々に愛されています。

[昭和32年10月4日 市指定]

八幡山の特殊地下壕 C・7



第二次世界大戦末期の昭和20年(1945)、旧陸軍が空襲と本土決戦に備え、八幡山公園内に建設を進めていたのがこの八幡山の特殊地下壕です。建設は6月中旬からはじまり、終戦までの約2ヶ月間で、出入り口11ヶ所、総延長721mにおよぶ横穴を掘り上げました。完成する前に終戦となり、実際に使用されることはありませんでした。

戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐものとして、現在もひっそりとその姿をとどめています。崩落の危険から、現在は内部公開を行っていません。

樋爪氏の墓【三峰山神社】 F・8



三峰山神社の中にある二つの五輪塔は、文治5年(1189)、源頼朝が奥州の藤原一族をせめたとき、祈願成就のお礼の生贄として二荒山神社に献納された樋爪俊衡と弟季衡、もしくは季衡とその子経衡の墓と考えられています。

言い伝えによれば、生贄となった季衡は故郷(陸奥国)恋しさのあまり逃亡し、追っ手に捕らえられ、上河原で殺害されたとされています。その後、土地の人がその死を哀れんで、この地に墓碑を立て冥福を祈ったとされています。

[昭和33年7月21日 市指定]

贈従三位戸田忠恕之碑【宇都宮城址公園】 G・6



戸田忠恕は、安政3年(1856)10歳で家督を継ぎ、宇都宮藩主となりましたが、幕末維新にあたって、山陵修復や戊辰戦争に力を尽くし、慶応4年(1868)5月、わずか22歳で没しました。この碑は、明治30年(1897)従三位が贈られた後、翌31年に旧藩士や有志が、忠恕の功績を後世に伝えるため建てたもので、その波乱に富んだ生涯が、漢文体で碑全面に刻まれています。

[平成5年3月22日 市指定]

霽屋山人碑【観専寺】 F・4



高久霽屋(1796~1843)は、江戸時代後期の南画(山水画のひとつ)の大家です。那須郡杉渡土(現在の那須塩原市越堀)の農家に生まれ、27歳のときに江戸へ出て渡辺華山らとともに、谷文晁の門人として才能を発揮しました。その作品の多くは、県や市の文化財に指定されています。石碑は、安政2年(1855)、観専寺の黙雷上人が建てたもので、霽屋の人物・交友・業績などを明らかにしています。

[昭和41年1月31日 市指定]